

平成 26 年 2 月 27 日作成

評価年月日	平成 26 年 2 月 19 日
評価の概要	<p><b>1 内部環境監査結果について</b></p> <p>監査に同行したが、監査人の事前準備、時間管理等がよくできており、決められていることができているかという点はきちんと確認されていた。</p> <p>所属長からトップとしての理念、持続可能性等について語られた上で、自らも確認されるべきであり、マニュアルに問題がある。</p> <p>講評では監査人が結果を述べるだけであるが、被監査所属との話し合いの場にしていただきたい。</p> <p>また、不達成の理由として、「仕事量が増えたため」とよく言われるが、「何もしなければこれだけ増えたのだが、対応策を実施したからこれだけの増加でとどまった。」という回答ができるように実践していただくとともに、監査人もその辺り掘り下げて見ていただきたい。</p> <p>環境管理シートにより目標設定して取り組み、評価を行う PDCA について、未達成の場合のみ原因分析するようになってきているが、達成した場合も原因分析を行いさらなる改善につなげていただきたい。</p> <p>環境リスクの高い事務について、要改善・要検討の件数が減っていないが、これらは事故につながる人が多いので、留意していただきたい。</p> <p>LED 化等について、「現在はこうであるが、3 年後にはこうなる」など長期的な計画が必要である。</p> <p>環境配慮について費用対効果を算出することは難しいが、長期的目標を立てどのような施策を実施するか明らかにすべきである。</p> <p>悪い点のみならず良い点も更なる改善に取り組んでいただきたい。</p> <p>環境リスクの高い事務について、工業高校においてもしっかりと取り組んでいただきたい。</p>

評価の概要

**2 スマートビズ岡山2013について**

複写機用紙、電力の削減は一定水準に達するとそれ以上は難しい。大学でもそうであるが、学生への周知等が必要であり、そのためにもマニュアルの充実が不可欠である。

電気自動車については導入計画等の指針が必要である。

公用自転車の集中管理は台数は少ないかもしれないがいい取組である。

見える化はストレスにもつながるので、留意が必要である。

**3 システムの見直しについて**

特になし

**4 全般に関する事項**

使用量だけ目標をクリアすればいいというのでは、事業活動そのものが低下することになりかねないので、業務がある時はそれによる消費量の増加も認められるようなシステム作りが必要である。